



愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高等学校  
愛知工業大学附属中学校

「世界に拓かれた教育・研究環境」の実現目指して

## 韓国の海洋大学と協力協定結ぶ

愛工大 友好交流は11大学・研究機関に

各国の大学・研究機関との交流を通じ、世界に通用する研究成果を上げていこうと愛知工業大学は六月二十七日、韓国の国立大学・韓国海洋大学校(釜山市)と協力協定に調印しました。愛工大が友好交流を進めるのは、これで九大学と二研究機関となりました。

調印式は六月二十七日午後五時から、海洋大本部の応接室で行われました。愛工大から後藤泰之学長をはじめ森豪国際交流委員長、



サインする後藤愛工大学長と金海洋大総長

榎田玄一郎学長補佐らが出席し、海洋大側からは金順甲総長、李孝雄大学院長、鄭在絨企画処長らが出席。後藤学長と金総長がそれぞれ協定書にサインし、協定



錨の形をしたモニュメントがある海洋大正面

目次:

教研特別助成	2・3
まるごと体験	4
オープンキャンパス	5
チャレンジプロ	6
名電の学科改編	7
国際交流など	8

発行所  
名古屋電気学園  
〒464-8540  
名古屋市千種区若水3-2-12  
TEL (052) 721-0201

書を交換しました。今後、教職員や学生の交流、共同研究推進や学術情報の交換

## 八草キャンパスに新本部棟 来春の事務統合目標に建設進む

新本部棟の完成イメージ図



平成十九年四月に学園と大学の事務組織が一本化されるのに備え、「新本部棟」の工事が大学八草キャンパスのテニスコート西側で進められています。新本部棟は鉄骨三階建て延べ約二千五百五十平方メートルで、一・二階は事務室、三階に理事長室や学長室などのほか会議室や応接室などが予定されています。第二本部棟入り口前からは、オープンデッキで二階に接続します。安全祈願祭は、七月一日に行なわれました。

など、具体的な協力方法を検討していく方針です。このほか愛工大と友好関係にある大学は東南大(中国)、ピエール・マリール・キューリー大(仏)、ケンタッキー大(米)、チェンマイ大、ソングクラ大(タイ)、メキシコ大、ヌエボレオン大(メキシコ)、

チャールズ大(チェコ)で、研究機関はヨーゼフ・ステファン研究所(スロベニア)とポーランド科学アカデミー基盤技術研究所。韓国海洋大学校は工学をはじめ海事科学、海洋科学技術、国際研究の四学部を持ち、学生数は約六千五百人で愛工大とほぼ同規模。

## 犬山高と「高大連携」で教育交流協定

愛工大 新一年生を科目等履修生受け入れ

愛知工業大学と愛知県立犬山高は七月五日、高大連携を進めるための「教育交流協定」を結び、午前十

時からA I Tプラザ三階会議室で協定書の調印式が行なわれました。愛工大が高大連携で協定を結ぶのは、

犬山高校がはじめてです。式には愛工大の後藤泰之学長、稲垣慎二副学長ら、犬山高校からは笠井紀世史校長、長谷川省一教頭、佐橋誠教務主任が出席し、後藤学長と笠井校長が教育交流に関する「協定」と「覚書」にそれぞれ調印しました。写真。この協定に基づき、双方で合意した講座(二単位)の犬山高側履修希望者を、愛工大が「科目等履修生」として受け入れることになりました。



犬山高校に今春入学した新一年生から講座の履修が可能となつていますが、当面は経営情報科学部の科目・講座が対象です。



正木和明教授による公開講座「都市防災Ⅰ」

正木教授らが「都市防災」の講座を担当  
 大学コンソーシアムせと  
 瀬戸地域の新しい文化創  
 生を目的に、愛知工業大学  
 など六大学が連携した組織  
 「大学コンソーシアムせ  
 と」の公開講座が五月九日  
 夕から「パルティセと」で  
 始まりました。愛工大をは  
 じめ金城学院大、中部大、  
 名古屋学院大、名古屋産業  
 大、南山大が加盟、愛工大  
 と金城学院大が前期の公開  
 講座を担当します。  
 トップは愛工大の「都市  
 防災Ⅰ」で、約四十人が受  
 講。工学部都市環境学科の  
 正木和明教授、小池則満助  
 教授、それに地域防災研究  
 センターの廣内大助、西村  
 雄一郎両研究員の計四人が  
 講師を務めます。

平成18年度の「教研特別助成」採択は54件 教員の教育活動や研究を助成する平成18年度「愛知工業大学教育・研究特別助成」の対象課題に、見開きページで一覧を掲載した計54件が採択されました。採択研究の分野別では「教育」が6件、「研究」が48件となっています。

【研究】 = 工学部

学科名	対象者	課題
電気学科	一柳 勝宏教授	自然エネルギー予測に基づくローカルネットワークにおける分散型電源の協調制御
	落合 鎮康教授	N <sub>2</sub> O、CO <sub>2</sub> 用センサに用いる有機電界効果トランジスタの開発
	植田 明照教授	直並列形アクティブフィルタの補償特性の研究
	村瀬 洋教授	UHF帯部分放電信号測定における外部ノイズ除去技術の開発
	穂積 直裕教授	脳腫瘍の外科手術時の組織診断における超音波音響インピーダンス顕微鏡の応用
	鳥井 昭宏助教授	スチュワートプラットフォーム型自律移動マイクロロボットの開発
	雪田 和人助教授	電力系統における分散型電源の直流系統・配電方式に関する研究
	山田 諄教授	カオスレーザレーダの分解能向上に関する研究
	徳田 豊教授	ワイドバンドギャップ半導体結晶評価とパワーデバイスへの応用
	内田 悦行教授	真空紫外エキシマレーザによる光コンピュータ素子の微細加工技法に関する研究
	森 正和教授	全光制御モード同期のための半導体レーザモジュールの開発
	古橋 秀夫助教授	物体の非接触三次元形状計測システムの研究
中村 栄治助教授	動き検出を目的とした複眼イメージングセンサの開発	
応用化学科	立木 次郎教授	極低温におけるヘテロ環状隣接ポリカルボニル化合物の光化学的挙動の検討
	中島 剛教授	フッ素化反応を利用したリチウム二次電池負極炭素材料の表面構造制御と電極特性
	小林 雄一教授	有機系廃棄物を利用した炭素-セラミックス複合多孔体の調製とその特性評価
	井上 眞一教授	ポリイミド化合物の合成触媒の開発
	平野 正典教授	ハイドロサーマル法を駆使する新しい機能性ナノマテリアルの創製と応用
	大澤 善美助教授	化学気相含浸法による球状炭素粉体の表面修飾とリチウムイオン電池負極特性評価に関する研究
	手嶋 紀雄助教授	新規なレドックス反応を用いるバナジウムの化学形態分析法の開発
機械学科	戸伏 壽昭教授	形状記憶材料の長期機能特性と応用の研究
	櫛田玄一郎教授	メタンハイドレートの燃焼に関する研究
	北川 一敬助教授	非一様複雑媒体による衝撃圧力減衰効果
	加藤 厚生教授	探索型レスキューロボットReBo-4号機の開発
	道木 加絵講師	自律移動ロボットの自己位置推定のための画像を用いた環境情報抽出方法の検討
	内田 敬久講師	精密位置センサの実時間制御に関する研究
都市環境学科	青木 徹彦教授	鋼製橋脚のハイブリッド実験による耐震安全性の評価
	小池 則満助教授	伝統的窯業地域における観光ルート整備に関する研究
	岩月 栄治講師	アルカリ骨材反応劣化構造物コアの膨張特性に関する研究
	建部 謙治教授	車椅子利用者の避難計画に関する調査・研究
	八木 明彦教授	富栄養湖内の動物プランクトン、メタン生成および脱窒作用による水質浄化作用の量的判定



竹村亜希子さんの講演に聞き入る人たち

「リーダーの易経」  
 主題に竹村さん講演  
 愛名会の本年度総会  
 名古屋電気学園を支援する企業・個人組織「学校法人名古屋電気学園愛名会」の平成十八年度総会と講演会が五月二十三日午後、名古屋市中区錦三の名古屋国際ホテルで開かれました。理事会、総会に続き、午後五時から「老松の間」に約二百人が出席して講演会が開かれ、易経研究家の竹村亜希子さんが「リーダーの易経」時の変化の道理を学ぶ」をテーマに講演しました。竹村さんは、君子の哲学書として読み継がれてきた「時と兆しの専門書」易経」を分かりやすく解説し、リーダーの「生き方」や「心構え」などについて自説を披露しました。

**中日社会事業団に50万円を寄託** 5月27日に発生した“インドネシア・ジャワ島中部地震”の被災者に少しでも役立てればと、学園と各設置校の教職員に義援金の協力をお願いしたところ、総額231,900円が寄せられました。これに学園本部の分を加えた50万円を、6月30日に西井松生顧問が中日新聞社会事業団に寄託しました。

【研究】＝経営情報科学部

学科名	対象者	課題
情報科学科	鈴木 達夫教授	市場戦略に向けたアウトソーシング製造モデルの研究～日中企業連携におけるマネジメント上の競争分析～
	池田 良夫教授	国際規格（ISO）が経営システムに及ぼす効果に関する調査研究
	大野 勝久教授	ジャストインタイム生産システムの体系化に関する研究
	伊藤 雅教授	製品ラインナップの製品ライフサイクルを考慮した外注品発注計画手法の確立
	小橋 勉助教授	企業間関係についての組織論的・戦略論的分析
	後藤 時政講師	ものづくり立国日本再来のための中小・ベンチャー企業における特許活用法のあり方
	石井 直宏教授	Web上のデータの半構造化に着目したテキストマイニング技術の研究
	伊藤 暢浩講師	災害救助シミュレーションにおけるエージェントの効率的な組み合わせに関する研究
マーケティング情報学科	寺本 和幸教授	嗜好度の評価基準に関するモデリングの実証研究
	中川 暉夫教授	信頼性技術に基づく保全・安全管理システムのリスク評価と解析
	野村 重信教授	中小企業における生産管理情報システムの構築
	石垣 尚男教授	3 DVTSによるスポーツ選手の視覚機能の比較研究
	小田 哲久教授	ファジィ理論を応用したデータ解析の研究

【研究】＝基礎教育センター

教室名	対象者	課題
自然科学教室	柳井 裕道教授	アーベル多様体上のホッジサイクルの研究
総合教育教室	藤井 勝紀教授	BMIの加齢変化から導かれる身体的ストレス性初経遅延の検証
	磯部 哲也助教授	映像で見るサミュエル・ベケットの演劇の世界
	服部 洋兒助教授	大学生の健康習慣からみたセルフエスティームおよび攻撃受動性について

【教育】

※工：工学部、経：経営情報科学部、基：基礎教育センター

学科名	対象者	課題
工・電気学科	沢田 克敏教授	授業映像蓄積・配信システム：プロトタイプ構築と試行実験
	中村 栄治助教授	
工・機械学科	酒井 春雄教授	人力飛行機の設計製作飛行に関する教育
	堀 康郎教授	知能機械工学専攻の2年生全員による移動ロボット、からくりロボット、物流自動機械の試作コンペ
経・情報科学科	阿部 圭一教授	日本語表現技法に関する教材および教育法の開発
基・総合教育教室	森 豪教授	ものづくり文化実習
	太田 伸幸講師	講義ビデオの自己評価を用いた教授能力向上に関する実践

まるごと体験ワールド

卓球で動体視力を測定



矢作川で水生生物の観察



パソコンを組み立てたり分解したり



ロボットカーの  
走行状況をテスト



ギリシャ神殿の  
模型づくりに挑戦



太陽電池でライトレースロボが動いた!



ミクロの不思議な  
世界を覗いてみる



超音波で  
試してみよう

まるごと体験ワールド

参加は600人超す  
大学で「まるごと体験」  
実験や実習などを通して子どもたちに科学の楽しさを知ってもらおうと、今年も八月五日と六日、愛知工業大学キャンパスで「まるごと体験ワールド」が開かれ、小学生〜高校生を中心に六百人を超える家族連れが参加しました。  
竹とんぼ作りや動体視力の測定、パソコンの分解・組み立て講座、ロボットづくりなど十二のイベントを開催。自分で制作したロボットを動かしたり、電子顕微鏡を覗いたり。大人も子どもも、新しい発見に驚きながら、夏休みの一日を楽しんでいました。

学校の内容や楽しさを積極PR  
愛工大など 学校展や進学フェアに出展  
◇中部の私立大学展◇  
「2007中部の私立大学展IIふれあいキャンパス新発見」が五月二十日と二十一日の二日間、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場イベントホールで開催されました。愛知、岐阜、三重の三県から大学と短大計八十一

「本戦」への準備万端  
ロボカップJR. 愛工大大会



マイロボットでサッカーゲームを楽しむ「ロボカップジュニア」愛知工業大学大会の本戦(十月十五日)

中部の私立大学展



私立中学進学フェア



校が参加。イメージキャラクター「鉄人28号」も出演した愛知工業大学ブースには、友達同士や親子連れの高校生らが大勢訪れ、大学の概要や入試方法などにつ

に備え、八月二十六、二十七日の二日間、12号館でロボットキットの組み立てとプログラムのインストール作業が行なわれました。小中学生十人と家族ら約三十人が参加。初日は組み立て、二日目は完成したロボットにパソコンで「○秒進む」「▽へ曲がる」などの命令プログラムをインストールしました。愛工大祭に併せて開かれる本戦で勝ち進もうと、走行テストも真剣な表情でした。

◇私立中進学フェア◇  
名古屋・栄の松坂屋本店南館八階で七月二十九、三十日の二日間、愛工大附属中学など県内二十校が参加し「2006愛知私立中学進学フェア」が開かれました。約七千人が来場し、各校は、パンフレットやビデオ映像を使い学校施設や教育内容をPRしていました。

いて、熱心に質問していました。また七月十七日には、名古屋市昭和区の吹上ホールで愛工大など全国百七十七の国公私立大が参加して、「大学フェア2006」も開かれました。

段差をのぼる車いすの実演



液体窒素のパワーにびっくり



オープンキャンパス



震度7の体験コーナー



大学の概要説明に聞き入る参加者たち



建築模型の制作に挑戦



個別相談で専攻などの情報ゲット



形状記憶合金の不思議な力に感激

若手芸人によるお笑いライブも開催



オープンキャンパス

**名古屋・丸栄百貨店の「鉄道模型展」に出展**  
 愛工大の鉄道研究部  
 鉄道の模型や写真などを集めた第二回鉄道模型展が五月二日から八日まで、名古屋・栄の丸栄百貨店八階催事場で開かれ、愛知工業大学の鉄道研究部（顧問・小池則満都市環境学科助教）も出展しました。五日からは屋上の特設会場で「ミニ電車号」（愛工大）と「ミニSL号」（名古屋工業大学）の試乗会も行なわれ連日、午前と午



家族連れを乗せて「快走」するミニ電車号

**オープンキャンパスに1600人が参加**  
 愛知工業大学恒例の夏のオープンキャンパスが七月二十九日に行なわれ、高校生や保護者ら約千六百人が参加しました。学科・専攻別の実験や研究発表を見学し、耐震実験センターでは「震度7」を体感。学科・専攻別の個別相談では、現役学生から講義内容や学生生活などの情報を仕入れていました。愛和会館講堂では、若手芸人の「お笑いライブ」も開催されました。

**227人が献血**  
 大学祭のイベント  
 十月十四日と十五日をメインに繰り上げられる愛知工業大学の第四十六回大学祭イベントとして、五月三十日と三十一日の二日間、12号館前で春の献血呼び掛けが行なわれました。初日は百二十一人、二日目は百六人の計二百二十七人が献血呼び掛けに応じ、二日間の献血は二〇〇ミリリットル四十人、四〇〇ミリリットル八十人、成分は七人となりました。



呼び掛けに応じて献血に協力する学生たち

た。献血の申し込みをしたのは、三百九人でした。なお、大学祭当日も献血呼び掛けが行なわれます。

心からご冥福をお祈りします

元愛知工業大学事務局長・佐藤正造（さとう・しょうぞう）さん(74) = 5月22日死去。告別式は5月24日午前10時から、名古屋市北区若葉通3-2-1の若葉通愛昇殿で営まれました。喪主は妻・辰子さん。

愛工大名電高校教諭・奥田明（おくだ・あきら）さん(57) = 5月29日死去。告別式は5月31日午前11時から、名古屋市熱田区四番2-1-23の六番町愛昇殿で営まれました。喪主は長女・祐子さん。

愛知工業大学工学部電気学科教授・高橋欣弘（たかはし・よしひろ）さん(66) = 7月15日死去。告別式は7月18日午前11時から、静岡県浜松市篠原町のセレモニーホール篠原で営まれました。喪主は長男・真一さん。

後藤学長から学位記を受ける山口市



**山口知宏氏に博士号**  
愛知県産業技術研究所職員・山口知宏氏(42)への博士号(工学)授与式が八月三十一日午前十一時三十分から、愛知工業大学本棟四階の会議室で行なわれました。論文は「クレールノコンポジットの構造と物性に関する研究」で、後藤泰之学長が「これからも頑張ってください」と激励、学位記を贈りました。

**名電 体験入学に700人超**



部員とチアリーディングを楽しむ参加者たち

愛工大名電高校の体験入学が八月二十八日午前九時

から行なわれ、七百人を超す中学生たちが訪れて大にぎわいしました。

北校舎の二・六階では、音楽鑑賞やCG体験コーナーをはじめ、電池なしラジオの制作など色々なイベントが行なわれ、中国やカナダでの国際交流の様相も紹介されていました。

また、一階「光の庭」では吹奏楽部のドリル演奏が行なわれ、チアリーディング部員も初登場して華やかな演技を披露しました。制服姿の女子生徒に、手足の

**助成額は13件八百万円**

本年度の大学チャレンジプロジェクトに、平成十八年度は十三件の申請がありました。審査の結果、下表のように総額八百万円の助成が決まり、研究成果は十月十四、十五日の大学祭に併せて開催される「工科展」など、各種コンテストに出展される予定です。

振りや声のかけ方を伝授する光景も見られ、和気あいあいのひとときでした。

**エントリーは九月二十二日まで**

**第五回「A I Tサイエンス大賞」**

科学に対する若者の興味・関心を呼び起こし、科学技術立国を支える人材を育成しようとして、愛知工業大学が東海四県の高校生を対象に、理科や科学クラブなどの課題研究を顕彰する第五回「A I Tサイエンス大賞」の募集要項が決まりました。大賞などの発表・審査は、十一月十八日に行われます。

募集の内容は、「自然科学」と「ものづくり」の部門に属する研究発表で、エントリー期間は九月二十二日までとなっています。はがき、電話、ファクスまたはEメールに①テーマ②生徒名③顧問名④メールアドレス⑤学校名⑥校長名⑦学校所在地⑧学校の電話番号とファクス番号を記入の上、下記の宛先まで申し込んでください。なお、詳しいことは「サイエンス大賞」係へお問い合わせください。

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247 愛知工業大学  
エクステンションセンター内「A I Tサイエンス大賞」係  
電話=0565-48-8121、ファクス=0565-43-1335  
メール・アドレス=e-center@aitech.ac.jp

◇平成18年度チャレンジプロジェクトの助成研究一覧◇

代表者	学部・学科など(丸数字は学年)	指導教員	研究テーマ	補助金(円)
榊原光利君	工学部機械工学科④	酒井春雄教授	平成19年度鳥人間コンテスト出場用人工飛行機的设计・製作	1,200,000
大野哲矢君	工学部機械学科③	内田敬久講師	二足歩行ロボットの開発	640,000
藤澤敏旭君	工学部機械工学科④	渡辺修教授	トラック競技用ベースメーカーロボットの製作	630,000
吉見圭司君	大学院工学研究科博士前期課程②	加藤厚生教授	パイプ点検ロボットの開発	840,000
太田拓弥君	工学部電気工学科④	雪田和人助教授	自律型ソーラーカーの製作・環境日本一エコエネルギーコンテストへの参加	740,000
山元敏雄君	経営情報学部経営情報学科④	後藤時政講師	高効率モーターを搭載した電気自動車の製作・Econo Power in Gifuへの参加	750,000
加藤久詞君	工学部情報通信工学科④	中村栄治助教授	ゴキブリライクな素早い逃避行動を示す小型昆虫ロボの開発	510,000
三輪秀幸君	工学部機械学科①	道木加絵講師	ロボットランサー、ロボトレース、マイコンカー用ロボットの製作	650,000
松下孝星君	工学部都市環境学科③	正木和明教授	地震防災学習用小型振動台の開発	330,000
船越瞬君	工学部情報通信工学科④	古橋秀夫助教授	ヒューマノイド型ロボットプロジェクト“行け!鉄人”	840,000
谷藤敬太君	工学部都市環境学科③	曾田忠宏教授	コンペ出展	75,000
山崎将君	工学部建築学科④	尾形素臣教授	近代建築の模型製作	295,000
細川一平君	工学部都市環境学科③	建部謙治教授	子どもからみたまちづくり	500,000

# 「ルブラ王山」皮切りに十八カ所

## 愛工大 来年度入試の説明会開く

今年秋から来年三月にかけて実施される愛知工業大学の平成十九年度入試について、高校の進路指導担当教員や塾関係者らに入試制度の概要などを理解してもらうため五月十六日、名古屋市千種区覚王山のルブラ王山会場を皮切りに「入試説明会」がスタートしました。五月末までに新設の三会場を含め、全国の計十八カ所で行なわれました。

### 経営情報科学研究科 の説明会もスタート

働く人たちも学びやすい「昼夜開講制」を取り入れた大学院経営情報科学研究科（博士前期課程・博士後期課程）の説明会も、七月二日から名古屋千種区の本山キャンパスでスタートしました。このあとは九月二日、十一月二十六日、十二月二日の計三回、年内の開催が予定されています。毎回、会場は二階の多目的室、説明開始は午後一時三十分（受け付け開始は午後一時）です。

は約二百人が参加。後藤泰之学長があいさつで、愛工大の教育理念や今後の取り組みなどについて述べたあと、石垣尚男入試部長（経営情報科学部マーケティング情報学教授）が愛工大の沿革や施設、学科内容などについて説明。続いて藤墳秀則入試部次長が、平成十八年度入試の結果分析や

### 「高大七年一貫教育」さらに推進

#### 名電高専門学科 「科学技術科」に改編へ

愛知工業大学と愛工大名電高校の関係を強化し「高大七年教育」を推進するため、名電高の専門学科再編とカリキュラム変更案を検討していましたが、下表のようにほぼ固まりました。

平成十九年度入試から実施の予定で、近く愛知県へ変更申請を提出します。

主な見直し点は、「電気科」「電子科」「機械科」を「科学技術科」に統合し、「情報科学科」はそのまま新しい学科名とします。また、三つの分野を新



ルブラ王山で行なわれた愛工大の入試説明会

課題を披露し、「大学全入時代」の到来など来年度入

試に関する全国の状況予想を基に、各高校や塾の関係者に「愛工大受験」への理解を求めました。

このあと横井浩治入試部入試広報課係長が、新年度入試制度の変更点を中心に細かく説明しました。主な変更点は、これまで「記述式」だった後期日程入試を「マーク式」に改め、中期日程とあわせて「マーク中期」「マーク後期」と呼称変更、試験内容を分かりやすくしたことなどです。

設して六コース制を導入、愛工大の工学部と経営情報科学部の各専攻とリンクすることにします。

新「科学技術科」のコース名、略称は次の通りです（Ⅱのあとは、現在の専門学科名）。①エレクトロニクス・エネルギーの分野（略称・電気分野Ⅱ電気科）②電子制御・通信の分野（略称・電子分野Ⅱ電子科）③ロボット制御・メカニカルシステムの分野（略称・機械分野Ⅱ機械科）④材料・環境・バイオの分

野（略称・化学分野Ⅱ新設）⑤立体造形・環境デザインの分野（略称・都市環境分野Ⅱ新設）。これに情報科学科の⑥CG・ネットワークデザイン分野（略称・情報科学科）が加わり、二学科六コースとなります。

下表のように、一年では「先端科学技術入門」として大学教員が十二講座を担当、レポートや宿題は高校教諭が対応する形で高大連携がスタート。二年は新設の化学・都市環境分野を大学に出向いて実験・実習、三年の課題研究は大学を中心に講義・実験などが進められる予定です。

学科	1年	2・3年（コース）	大学・学科
情報科学科	先端科学技術入門	立体造形・環境デザインの分野（新）	愛工大 ・都市環境学科 ・マーケティング情報学科 ・電気学科 ・情報科学科 ・機械学科 ・応用化学科
		CG・ネットワークデザインの分野	
科学技術科	普通科目	エレクトロニクス・エネルギーの分野	
		電子制御・通信の分野	
		ロボット制御・メカニカルシステムの分野	
		材料・環境・バイオの分野（新）	

東南大幹部と記念写真に収まる訪中代表团



後藤泰之学長を団長とする愛知工業大学平成十八年度訪中代表团が、六月十一日から十七日まで、姉妹校の東南大学(南京市)など

東南大との交流深める 愛工大訪中代表团

を訪問しました。後藤学長をはじめ奥村哲夫工学部都市環境学科教授、菱田隆彰電気学科助教、雪田和人電気学科助教、高木淳基礎教育センター自然科学教室助教授の教授陣五人、それに事務職員二人が同行しました。十二日は午前中、奥村教授が「飽和砂地盤の液化化強度特性について」、菱田助教授が「秘密の共有と分散」をテーマに東南大で特別講義。夜は、愛工大同窓会による歓迎宴も開かれ、十三日からは北京など各地を見学して回りました。

南京市とバンクーバー



名電生は全員が浴衣姿で交歓会に参加しました

愛知工業大学が姉妹校提携している中国・東南大学(南京市)の附属中高一貫校、南京市第九中学校を八月一日から五日間、生徒八人(引率教員三人)が訪問しました。初日は部活の参観や歓迎レセプションで交流を深めました。また三日目の交歓会では、名電生全員が浴衣姿で参加。交流の

愛工大名電生は「国際派」！ 姉妹校訪問や語学研修で交流深める

南京市第九中学校

携している中国・東南大学(南京市)の附属中高一貫校、南京市第九中学校を八月一日から五日間、生徒八人(引率教員三人)が訪問しました。初日は部活の参観や歓迎レセプションで交流を深めました。また三日目の交歓会では、名電生全員が浴衣姿で参加。交流の



深紅の法被に「衣替え」して踊る愛工大瑞若連

愛工大瑞若連が健闘賞受賞

おいでんまつり総踊り三十八回目となる豊田お

いでんまつり2006が七月二十八日から三十日の三日間、豊田市の中心部で行なわれました。若者を中心に派手な衣装で踊り抜く「おいでん総踊り」二日目の二十九日午後六時三十分からは、名古屋電気学園と各設置校の教職員有志とその家族ら四十人で編成する「愛工大瑞若(みずわか)連」が出場しました。昨年まで淡いブルーだった法被を、華やかな深紅に衣替え。ウチワやかけ声で拍子をとりながら、振りや揃い方に練習の成果を披露し、健闘賞に輝きました。

模様は地元テレビや新聞でも紹介されました。「語学研修」に参加 生徒三十五人(引率教員二人)が七月二十三日から十六日間、カナダ・バンクーバーで、夏休み中のブリティッシュ・コロンビア大学施設を活用したサマーカーンプに参加、語学研修を受けました。午前中は、世界各国から参加した生徒に混じって英会話のレッスンを。午後のアクティビティ(野外講習)では、韓国やメキシコの人たちと積極的に会話してい



午後のアクティビティでは積極的に外国人と交流

ました。またホームページやブログを使い、カナダ滞在の模様をリアルタイムで保護者に伝え好評でした。

編集後記

「少子高齢化傾向」になかなか歯止めがかからず、教育界は「大学全入時代」への対応を迫られています▼さらに若者の「理科離れ傾向」は、理系の学校関係者にとって経営上の深刻な課題となっています▼少しでも若者たちに「理科の楽しさ」を知ってもらおうと、イベントや講習会もあちこちで開かれています▼この夏、大学キャンパスで行なわれた催事を取材して感じたことは、「参加した小中学生より親の方が、工作(ものづくり)を楽しんでいる」▼編集子よりかなり若い世代ですが、やはり「自分でつくったものが動く」瞬間には、感動するのでしょうか▼「切り出しナイフ」や「竹ひご」が工作の主流だった時代、輪ゴムが動力源で「紙の翼」の飛行機がまっすぐ飛んだ時の満足感▼切り出しナイフでできた左手人差し指の傷の痛みは忘れても、この時の爽快感はいまも鮮明に覚えています▼完成した時の喜びは、つくる苦労の何倍も大きいことを、どうすれば子どもたち伝えられるのでしょうか(柳)